



▲優勝旗を受け取るベイカー(東海大浦安)

# 東海大浦安 圧倒的な強さで 初V



## 平成24年金鷲旗高校柔道大会 男子 東海大学付属浦安高校が初優勝!!

「平成24年度金鷲旗高校柔道大会」最終日の7月24日(火)、マリネット七福岡(福岡市)にて男子4回戦の残り試合から決勝戦までが行なわれた。

23日(月)昨日の女子決勝戦では、昨年準優勝の敬愛高校(福岡県)が渋谷教育学園渋谷高校(東京都)を破り、5年ぶり2度目の優勝を勝ち取った。

白熱した女子戦の熱がさめやらぬ中、本日(24日)の男子戦では、東海大学付属浦安高校(千葉県)が、同じ関東勢の桐蔭学園高校(神奈川県)を破り、大会初優勝を飾った。

浦安高校は、春の「全国高等学校柔道選手権大会」に続き二冠を達成。チーム全員が「全国高等学校総合体育大会(インターハイ)柔道競技大会」も優勝し、「三冠を狙う」と決意を新たにしていた。

超高校級のパワーを持つベイカー(菜秋(ましゅう)、ウルフ)アロンを擁する浦安高校は、初戦から準々決勝までの6試合、大将のベイカー(ましゅう)



▲決勝戦 東海大浦安(ウルフ)対桐蔭学園(藤井)

う)を二度も試合場に立たせない「座り大将」で勝ち上がり、決勝戦でも大将を温存する圧倒的な力を見せつけた。



▲準決勝戦 東海大浦安(ベイカー)対東海大相模(小原)

また一方、敗れた桐蔭学園高校は、春の全国高等学校柔道選手権大会決勝での雪辱を果たすべく挑んだが、大会の主人公になることはできなかった。桐蔭学園高校はインターハイの出場もなかったため、悔しさをぶつけるチャンスがなくなった。

昨年準優勝の東海大付属相模高校は、伝統の試合運びの上手さで、大会連覇を狙う国士館高校(東京都)を準々決勝で下すものの、準決勝では浦安高校に歩及はず3位に終わった。

地元福岡県の大牟田高校は、5年ぶりの3位入賞、九州勢としては3年ぶりの入賞、優勝候補に挙げられていた天理高校(奈良県)は、準々決勝で敗れベスト8に留まった。

8月2日(木)から行なわれるインターハイまでは残りわずか。今大会の結果がインターハイにどんな影響を及ぼすのか。この期間の調整も勝負の明

暗を分ける要素となる。

浦安高校は、余勢を駆って高校柔道三大大会3冠を狙う。浦安高校史上最強のチームは、さらなる伝説をつくる事ができるのか。

強豪「国士館」を破った「東海大相模」。これを力ずくで撃破した「東海大浦安」。その強さは計り知れない。2強の時代から3強の時代へ!。点取り試合のインターハイで、最終決戦(決着)を試みる。



▲優勝した東海大付属浦安高校の竹内監督と選手

### 金鷲旗高校柔道大会男子 決勝



優勝	東海大学付属浦安高校
準優勝	桐蔭学園高校
3位	東海大学付属相模高校 大牟田高校